

観 点	ね ら い	問 題 番 号	正 答 率			
			小 問	大 問	観 点	
3 社 会 的 思 考 ・ 判 断	律令制度下における農村の動き	3 (1)	49.7	49.8	27.0	
		(2)	45.7			
		(3)	58.9			
		(4)	44.7			
	鎌倉幕府の成立と武家政治の広がり	1 (1)	46.0	43.5		
		(2)	57.6			
		(3)	37.4			
		(4)	33.1			
	奈良・平安・鎌倉の各時代における文化の特色	2	①	10.9		12.0
			②	17.5		
③			7.6			
ヨーロッパの近代化	3 A	(1)	28.8	25.5		
		(2)	18.9			
		(3)	48.7			
		(4)	38.4			
	B	(1)	10.9			
		(2)	13.9			
		(3)	33.1			
		(4)	10.9			
総 平 均					40.7	

(2) 結果の考察

1 地理的分野の概要

小問、大問の正答率をみると、「知識・理解」「資料活用能力」「社会的思考・判断」のいずれについても、正答率が50%に達しないものがいくつかみられる。

特に、「日本の工業都市と産業の結びつき」「気候区分や気候グラフと都市との対比」「エネルギー需要のうつりかわり」などの設問に多くみられた。

これを観点別に分析考察すると、「知識・理解」では、社会事象の相互の関連や、基本的事項を総合的に理解する能力に欠けている。また、「資料活用能力」では、気候グラフの対比的な読み方の訓練に欠けている。「社会的思考・判断」では

特に対象の分析的・総合的な考察判断力が劣ることが指摘されている。

また解答状況を考察すると、解答の組み合わせの正答率が一段と低くあらわれている。このことは概して、簡単な機械的・断片的記憶に依存する問題は高い正答率を示しているが、やや高次で、複雑な論理的思考力を必要とする問題は低い正答率を示している。

また、テストへのとりくみ方として、問題文の正確な読みとりができず、誤った解答法による誤反応がみられたり、早合点によって、問いを読みちがえたり、考えちがいをしたと思われる初歩的なミスも意外に多くみられた。

2 歴史的分野の概要

全体の正答率は、40.7%で、予想を下回りやや難しい問題と受取ることができる。